

問 平成20年度の予算編成は 答 歳入に見合った歳出を基本に 予算編成しています



青木 武明 議員

問 平成20年度予算編成に当たっての基本的な考えは。

町長 より一層の徹底した歳出の見直しによる削減、これに努めると共に歳入に見合った歳出、これがこの予算編成の基本であることを全職員に認識して頂きました。

問 本町の財政は非常に厳しい状況にあるが、そういう中で、新規事業と継続事業は。

企画財政課長 継続事業への影響ということになりますと、特に上下水道の施設の設備や公共施設の機器設備の変更等が上げられます。また、県の財政事情から補助金が減額されるといった中で地籍調査事業が3力年延長されまして、平成31年度完了予定です。

問 新たな歳出によって削減された予算はどのようなものがあるのか。

企画財政課長 新たな歳出は、IC周辺の計画決定業務、次期総合振興計画の策定業務、指導主事

の派遣、副町長の設置、さらには、浄化センターの機械設備等、入替え工事など1億7,200万円を計上しています。また、削減される予算としては人件費の1億700万円、事務事業等1,320万円を削減したところです。



道の駅ごか駐車場

問 圏央道開通による道の駅の規模は
答 交通量の増加により、現在の規模
で対応できるか心配される

問 圏央道にあわせて4号バイパス4車線化が完了すると言われるが、今後の見通しはどうか。

町長 道路管理者である国土交通省に対して早期4車線化の要望活動を行っているところなんです。また、機会あるごとに県知事、並びに関係部局にも協力要請を積極的に行っています。既に国土交通省では、4号バイパスと圏央道の乗入部（又は接続部）の道路設計を完了しているとのことなんです。

問 道の駅もオープン以来3年が経過して大変な盛況となっております。圏央道、4号バイパス4車線化後には交通量が倍増するものと思われ、現在の道の駅の規模で対応出来るのか。

町長 圏央道インター周辺開発事業の計画も進み、

道の駅を含めた全体の土地利用計画づくりのなかで、これらの調整を、今後、出店を予定している大型店にも強く要請しています。

問 今後、交通量や道の駅の集客等、コンサルタント会社調査の依頼の考えは。

町長 道の駅も3年を一つの区切りとして新たなスタートという気持ちで今、ご指摘のありましたように周りの状況も変わっていますので、色々調査して取締役会等で今後じっくり検討を進めていきたいと考えています。

問 圏央道の開通等によって車の流れが相当変わってくると思うが、アクセス道路の今後の整備計画は。

建設環境課長 現在、町

内に新4号とのアクセス道路は、県道2路線を含めて6路線あります。新たに道の駅南側の町道5号線が新4号と立体交差という形で接続することになります。県道西関宿栗橋線、これを結ぶ町道52号線の拡張が重要なアクセス道路となります。その他のアクセス道路につきましては、新4号の4車線化の整備計画、こちらとの整合性を図りながら道路利用者の安全を確保するよう適正な交差点形態を確保すべく関係機関と調整を図りながら進めていきたいと考えています。

